

青柳小学校の取組

前青柳小学校長 横田久夫

▼地域の方々の温かい支援

「二百人分の芋炊きは、これを見たら出来ますよ。」

と、上小川のMさんから、お宅を訪問するや否や料理方法のメモをいただきました。

シリーズ②「伝え継ぐ藤樹先生」

今から三年前、第一回藤樹デーで芋炊きをする事になり、調理方法や材料の相談に乗っていただきたくて訪問した時のことです。前もって用意してくださったメモと丁寧な説明に、学校への熱い思いが伝わってきました。

あれから三年が経ちます。毎年藤樹デーには、保護者や地元の方々の温かい支援をいただきながら、学校だけではできない充実した活動が、続けられています。

▼三年目を迎えた「藤樹デー」
中江藤樹生誕の地を校区に持つ青柳小学校では、このような地域の方々に支えられ、藤樹の教えを学校教育に生かす取組が幾多おこなわれてきました。

中でも、藤樹デーは、全校児童が一日かけて藤樹先生のことを学ぶ特筆すべき全校行事です。

藤樹デーは、次の四つから成りま
す。①藤樹ウォークラリー（六年生
担当）、②芋炊き昼食（地域ボラン
ティアの協力）、③藤樹かるた大会
（五年生担当）、④心に響く芸術鑑賞
（生の演劇や音楽）等です。

特にウォークラリーは、藤樹神社
や藤樹書院など藤樹ゆかりの施設を
巡る縦割り班活動です。順路選択や
各ポイントの問題作りは六年生が担
い、地元の方々が要所の解説をして
くださいます。

実際のラリーの間、六年生は班長
になったり、各ポイントを担当した
りします。積極果敢にみなをリード
する六年生の姿は、下級生には頼も
しく映り、上級生への信頼感が大き
に増す機会になっています。



玉林寺（藤樹の墓所）門前でウォークラリーの問題を1年生に説明する6年生児童。

▼意識下の「愛敬の心」を具現
藤樹デーに取り組む高学年児童を
見ていると、自らの役割をはたす際
に、取り分け小さい子への配慮を怠
らない場面が頻繁にある。

例えば、ウォークラリーのあるポ
イントで、一年生にも問題が理解で
きるように、腰をかがめ低い姿勢で
丁寧に説明しようとする。小さい子
が、さらに小さい子のために思いや
りの心を表す。けなげにも小さい子
のためにかいがいしく振る舞う子ど
もたちの心根に、愛敬の心が具現化
したのを感じます。

▼説得力のある心の教育「愛敬」

中江藤樹が
説いた愛敬
の心は、学
校現場にあっ
ては、たいへ
ん説得力があ
り、誰にでも
体験的に理
解できます。
学級での生
活や児童会活
動、それに日
日の学習や遊
びなどは、基
本的に集団
活動です。そ
こで一番大事
なことは、す
べての仲間に
対して真心を
もってコミュニ
ケーションを
図ろうとする
誠実な態度で
す。また、学
校は、異年齢
の者が集団



西晋一郎 筆「愛敬」の顔（青柳小学校会議室）

で生活をします。ここでは、上級生
は愛しみを持って下級生に接し、下
級生は尊敬の心を持って上級生と親
しむことを生活の基本に置きたいと
考えて来ましたが。

▼藤樹の教えを学ぶということ
藤樹の教えを学ぶために、青柳小
学校では、二つの方法をとっていま
す。

一つは、
『副読本藤樹
先生』等を
使った道徳や
総合的な学習
などのカリ
キュラムに位
置づけられた
学習を進める
ことです。



校訓の石碑（青柳小学校玄関前）

二つは、藤
樹デーなどの
学校行事や特別活動、清掃活動など
の実践を通して体得する機会を多く
持つことです。

藤樹の教えを学び、身に付けるに
は、これら二つの学習を積み、児童
一人ひとりが、学校生活を送る上で
の規範意識を高め、誠実に生きよう
と努めることが大切です。校訓『良
知に生きる』とは、この様な姿を指
し示しているものと考えます。